

北薩・伊佐地区埋蔵文化財
分布調査報告書 (IV)

里村・上甑村・鹿島村・下甑村
長島町・祁答院町

平成6年度

1995年3月

鹿児島県教育委員会

序 文

北薩・伊佐地区（一部日置地区を含む）の埋蔵文化財分布調査は、平成3年度から9か年計画で県教育委員会が実施している事業です。

平成6年度の里村・上甑村・鹿島村・下甑村の甑島4村と長島町・祁答院町をあわせて、これまでに1市9町4村で364ヶ所の遺跡を確認しました。

これらは埋蔵文化財保護行政の基礎資料として、南九州西回り自動車道建設や九州新幹線鹿児島ルート建設・地域中核都市整備計画・農業基盤整備事業等の諸開発事業との調整に早速活用されております。

県教育委員会においては、昭和50年度から実施した大隅開発関係地域埋蔵文化財分布調査から始まって、継続的に埋蔵文化財分布調査を実施しています。市町村教育委員会におかれては、こうした資料を活用されるとともに、事業後の遺跡地図の整備・点検と遺跡の周知にさらに努められるようお願いいたします。

本報告は里村・上甑村・鹿島村・下甑村の甑島4村と長島町・祁答院町の新たに確認した37遺跡についてとりまとめたもので、調査に協力していただいた関係町村教育委員会並びに関係者各位に対し深く感謝の意を表します。

平成7年3月

鹿児島県教育委員会

教育長 有 馬 学

報告書抄録

ふりがな	ほくさつ いさちくまいぞうぶんかざいぶんぶちようさほうこくしょ							
書名	北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査報告書 (IV)							
副書名								
巻次								
シリーズ名	鹿児島県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	69							
編著者名	堂込秀人, 倉元良文							
編集機関	鹿児島県教育委員会							
所在地	〒892 鹿児島県鹿児島市山下町14番50号 TEL 0992-26-8111							
発行年月日	西暦 1995年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 〃 〃	東経 〃 〃	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
すみうらがさこ 純浦ヶ迫遺跡 他3	さつまぐんさとむら 薩摩郡里村	463884	8 } 11	31°48' } 31°52'	129°53' } 129°57'	1994.7.13 ~7.15	200ha	分布調査
しんかわ 新川遺跡他1	かみこしきむら 上甕村	463892	3 } 4	31°47' } 31°54'	129°48' } 129°53'	1994.7.11 ~7.12		
こむた 小牟田遺跡	かしまむら 鹿島村	463914	6	31°43' } 31°47'	129°46'30" } 129°48'	1994.7.7		
はま 浜遺跡田7	しもこしきむら 下甕村	463906	11 } 17	31°37' } 31°43'	129°39'30" } 129°47'	1994.7.4 ~7.6		
かんのんびら 観音平遺跡 他11	いずみぐんながしま 出水郡長島町	464040	21 } 31	32°06' } 32°13'	130°06' } 130°10'	1994.7.18 ~7.27	600ha	
さこばた 迫畑A遺跡 他7	さつまぐんけどういん 薩摩郡祁答院町	463876	25 } 31	31°47'30" } 31°53'	130°28' } 130°35'	1994.8.2 ~8.10	500ha	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
純浦ヶ迫遺跡 他3遺跡	散布地	古墳~中世	—————		土器片・青磁片・石器等		表採資料	
新川遺跡 他1遺跡	散布地	古墳	—————		土器片		表採資料	
小牟田遺跡	散布地	古墳	—————		土器片		表採資料	
浜遺跡 他7遺跡	散布地	縄文~中世	—————		土器片		表採資料	
観音平遺跡 他11遺跡	散布地	縄文~中世	—————		土器片・須恵器片・青磁片等		表採資料	
迫畑A遺跡 他7遺跡	散布地	縄文~中世	—————		土器片・須恵器片・石器等		表採資料	

例 言

1. 本書は、平成6年度に実施した北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査における「北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査(Ⅳ)」である。
2. 本年度は、甕島4村(里村・上甕村・鹿島村・下甕村)と長島町・祁答院町の4村2町を対象とした田畑等の一筆毎の悉皆調査を基本として、必要に応じて聞き取り調査を実施した。
3. 調査に当たっては、各町作成の1万分の1の地形図を利用した。
4. 本報告書掲載の、遺物実測は倉元・堂込が行った。
5. 執筆分担は、下記のとおりである。
第1章 6頁～10頁……………堂込
第2章 11頁～17頁……………倉元
第3章、第4章 18頁～27頁……………堂込
6. 付図中の遺跡地図・地名表は、黒刷りが周知の遺跡を、赤刷りが新発見の遺跡のものである。
7. 編集は、堂込、倉元が行った。

目 次

序 文	
報告書抄録	
例 言	
目 次	
第1章 調査の経過	6
第1節 調査に至るまでの経過	6
第2節 調査の組織	6
第3節 調査の経過（日誌抄）	6
第2章 甌島の調査	10
第3章 長島町の調査	18
第4章 祁答院町の調査	25

表 目 次

第1表 調査日程および調査地区	7
第2表 新発見の遺跡地名表	7～9

挿 図 目 次

付図1	里村・上甌村・鹿島村遺跡地図	
付図2	下甌村遺跡地図	
付図3	長島町遺跡地図	
付図4	祁答院町遺跡地図	
第1図	甌島の遺物(1)	11
第2図	甌島の遺物(2)	15
第3図	長島町の遺物(1)	20
第4図	長島町の遺物(2)	23
第5図	祁答院町の遺物	25

図 版 目 次

図版1	里村，上甌村，鹿島村の遺跡《純浦ヶ迫遺跡・赤崎遺跡・下竹崎遺跡・古城遺跡・新川遺跡・江石遺跡・小牟田遺跡》	12
図版2	下甌村の遺跡《下甌村手打砂丘全景・小泊遺跡》	16
図版3	下甌村の遺跡《桑林遺跡・湯ノ尻遺跡・長迫遺跡・城ノ田遺跡・中平遺跡・宮迫，田ノ浦遺跡》	17
図版4	長島町の遺跡《観音平遺跡・仁田元遺跡・古外戸遺跡・千代世原遺跡・大畑遺跡・小原ヶ岡遺跡・後畑遺跡・崎野遺跡》	19
図版5	立神遺跡の状況	22
図版6	長島町，祁答院町の遺跡《木之上遺跡・湯平遺跡・迫畑A遺跡・迫畑B遺跡・中尾遺跡・竹迫遺跡・堂ノ峯遺跡》	24
図版7	祁答院町の遺跡《保機山遺跡・柵場遺跡・屋所原遺跡・戸高野の古石塔》	26
図版8	甌島の遺物	28
図版9	長島町の遺物	29

第1章 調査の経過

第1節 調査に至るまでの経過

鹿児島県教育委員会は、北薩・伊佐地区の4市13町4村(串木野市・阿久根市・出水市・大口市・東市来町・市来町・樋脇町・東郷町・鶴田町・宮之城町・薩摩町・里村・上甕村・鹿島村・下甕村・高尾野町・長島町・東町・野田町・菱刈町)について埋蔵文化財分布調査を平成3年度から平成11年度にかけて計画した。これは、北薩・伊佐地区の諸開発事業の施行に際して埋蔵文化財保護行政と開発事業との調整に資することを目的とするもので、平成3年度は串木野市・東市来町・市来町を実施し合計で116遺跡を、平成4年度は樋脇町・東郷町・鶴田町を実施し合計で104遺跡が発見され、周知化されて活用されている。平成5年度は宮之城町と薩摩町で104遺跡が追加されている。

調査にあたっては、文化庁全国遺跡分布調査要項(昭和46年4月)に準拠し、埋蔵文化財を中心に原則として田畑一筆毎の悉皆調査を行い、必要に応じてボーリング調査をするなど精密な分布調査を実施するものである。また、結果については分布図・報告書を作成し関係機関に配布する。

平成6年度は、里村・上甕村・鹿島村・下甕村の甕島の4村と長島町と祁答院町の2町を対象にして、平成6年7月4日(月)～8月11日(木)にかけて分布調査を実施した。

第2節 調査の組織

調査主体者	鹿児島県教育委員会	教育	町有馬	学
調査責任者	鹿児島県教育庁文化課		長立園	多賀生
調査企画担当者	〃	課長補佐	今別府	修一
	〃	主任文化財主事	吉永	和人
	〃	主任文化財主事		
		兼埋蔵文化財係長	戸崎	勝洋
調査担当者	〃	文化財主事	堂込	秀人
	鹿児島県立埋蔵文化財センター	文化財主事	倉元	良文
	〃	文化財主事	下園	昌三
調査事務担当者	鹿児島県教育庁文化課	主幹兼企画文化係長	平野	誠一
	〃	主査	末吉	博志

調査にあたっては北薩教育事務所をはじめ、各町村教育委員会の協力を得た。なお、調査事務所として長島町文化ホールや祁答院町農村改善センターの一室を提供していただいた。手打小学校から遺物の借用などで協力を得た。

第3節 調査経過

調査は、甕島を2週間、長島町を2週間、祁答院町を2週間の予定で、甕島の下甕村から調査を行った。下甕村社会教育課係長田中智治、鹿島村教育委員会梶原五平、上甕村社会教育課長植村昭二、里村社会教育課大村慎吾、長島町社会教育課係長山崎友喜、同文化財指導委員大迫政喜の各氏が調

査に同行した。分布調査は、甑島・長島町が堂込・倉元で行い、祁答院町が堂込・下園で行った。事前打ち合わせを5月16日(月)・17日(火)に行った。

報告書作成作業は、県立埋蔵文化財センターで行った。

以下、具体的な調査内容については、一覧表にまとめた。

第1表 調査日程および調査地区

月 日	町 村 名	分 布 調 査 地 区	発見遺跡番号
7月4日 ～6日	下 甑 村	手打周辺(浜・麓・本町), 長浜, 芦浜, 青瀬, 瀬尾, 内川内, 瀬々野浦	1～9
4・5日		手打小学校訪問し遺物を借用	
7月7日	鹿 島 村	蘭牟田, 小牟田, 寺家, 中山	
7月8日		鹿島港から中甑港へ移動, 里村教委と打ち合わせ	1
7月11日 ～12日	上 甑 村	桑之浦, 瀬上, 小島, 江石, 平良, 中野, 茶ノ木, 中甑	1・2
7月13日 ～15日	里 村	須口, 村西, 村東, 市の浦, 藪下, 藪中, 藪上	1～4
7月18日 ～21日	長 島 町	平尾, 北方崎, 茅屋, 藤之元, 仁田之元, 母良木, 萩之牟礼, 菅之牟礼, 明神, 蔵之元, 小浜崎, 指江	1～9
7月25日 ～27日		母良木, 犬鹿倉, 川内, 指江, 米山, 馬込, 汐見, 汐見潟, 広野, 唐隈, 長崎鼻, 堂崎, 中央林道沿い	10・11
8月2日 ～5日	祁答院町	黒木, 小牧, 南, 大村小牧, 浦, 木原, 楠原, 上手, 園田, 蘭牟田麓, 蘭牟田中原, 原, 大坪	1～8
8月8日 ～10日		下手, 崎山, 中武, 松ノ川内, 下手中, 矢立, 木場, 上門, 秋上	

今回の分布調査の結果, 里村4遺跡, 上甑村2遺跡, 鹿島村1遺跡, 下甑村10遺跡, 長島町12遺跡, 祁答院町8遺跡の合計37遺跡が新たに追加された。以下一覧表のとおりである。遺跡番号は地図の赤色番号に対応する。これらは周知の遺跡の遺跡番号に継続するものである。

第2表 新発見の遺跡地名表

43 里村

番号	遺 跡 名	所 在 地	地 形	時 代	遺 物 等	備 考
1	純浦ヶ迫	里村須口	台地	古墳・中世	成川式土器片・ 土師器・青磁片	
2	赤崎	〃	山裾	古墳	成川式土器片	
3	下竹崎	里村里	〃	古墳	成川式土器片	畑地整備
4	古城	〃	台地	古墳	成川式土器片	

44 上甌村

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
1	新川	上甌村江石	山裾	古墳	成川式土器片	
2	江石(塩巻)	〃	砂丘	古墳	成川式土器片多数	周知の遺跡, 拡大

45 下甌村

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
1	(石垣)	下甌村手打浜	砂丘	弥生~古墳	(弥生) 土器片	} 同一遺跡 浜遺跡
2	(城間)	〃	〃	〃	土器片	
3	小泊	下甌村手打	海岸段丘	古墳	〃	
4	桑林	〃	山裾	〃	〃	} 小規模 残存状況よく ない
5	湯ノ尻	〃	〃	〃	〃	
6	長迫	〃	〃	〃	〃	
7	城ノ田	下甌村長浜	台地	〃	〃	
8	中平	下甌村瀬々野浦	沖積平野 (砂丘)	〃	〃	宅地化
9	浜田	下甌村浜田	〃	〃	〃	〃
10	宮迫・田之浦	〃	〃	縄文~中世	〃	郷土史

46 鹿島村

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
1	小牟田	鹿島村小牟田	砂丘及 後背地	古墳	成川式土器	多量

50 長島町

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
1	観音平	長島町平尾	谷頭 西向き	古墳	成川式土器片	
2	仁田元	長島町平尾母良木	台地	旧石器	細石核, 剥片	
3	古外戸	〃	〃	旧石器~縄文	剥片	包含層削平の可能性
4	千代世原	長島町平尾萩之牟礼	〃	古墳	須恵器, 土師器	古墳の跡の可能性
5	立神	〃	〃	〃	古墳石棺(一部残存), 磨石, 凹石, 成川式土器片, 土師器	樹園地として整備済
6	大畑	〃	〃	〃	成川式土器片	
7	小原ヶ岡	長島町蔵之元	〃	〃	土師器, 須恵器	
8	後畑	〃	〃	縄文, 古墳, 中世	成川式土器片, 黒曜石剥片, 青磁片	
9	崎野(西ノ丸)	長島町指江	微高地 海岸段丘	縄文, 古墳	黒曜石剥片, 成川式土器片, 青磁片	
10	木之上	長島町馬込	谷	古墳	成川式土器片	
11	湯平	長島町汐見潟	砂丘	縄文, 弥生, 古墳	石棺墓, 縄文土器片, 須恵器片	(墓は京大調査)
12	明神B	長島町明神	台地	縄文	縄文土器	道路工事中出土

42 祁答院町

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
1	迫畑A	祁答院町黒木	台地	縄文~古墳	土器片, 石鏃	
2	迫畑B	〃	〃	古墳	成川式土器片	
3	中尾	祁答院町下方限	台地先端部	古墳	成川式土器片	
4	竹迫	祁答院町上手	台地 (谷頭)	古墳 奈良~平安	成川式土器片, 土師器, 須恵器	
5	堂ノ峯	祁答院町蘭牟田	台地 (北側)	縄文, 古墳	黒曜石片, 成川式土器片, 土師器片	
6	保機山	〃	台地 (谷頭)	古墳	成川式土器片	
7	栢場	〃	台地 (南端)	古墳	成川式土器片	
8	屋所原	〃	台地 (全体)	縄文, 古墳	石鏃, 縄文土器片, 成川式土器片	H6 農政分布

第2章 甑島の調査

第1節 里村

甑島列島は上甑島・中甑島・下甑島と近辺の小さな島々からなり、薩摩半島の西方約30kmに位置し、北東から南西に連なる。全長38km、最大幅11kmを測る。行政上は、里村・上甑村・鹿島村・下甑村の四村に分かれる。全島が急崖のリアス式海岸で平地は少ない。気候は温暖で、大ヘゴは自生の北限として天然記念物に指定されている。

里村は上甑村の北東に位置し、面積は17.22km²である。沿岸流によってできた長さ1.5km幅、200～400mのトンボロ（陸繋砂州）が発達し、2つの島をつないでいる。甑島の中では平坦地が多く水田が広がる。また、鎌倉時代に地頭職が置かれ、その後薩摩藩の支配が続いた。1889年（明治22）に上甑村となり、1891年（明治24）に分村独立して里村となった。

1 純浦ヶ迫遺跡（図版1，第1図－1・2）

里から長目の浜へ向かう道路の上甑村との村境で、須口池を北に臨む標高10m前後の台地の先端部に立地する。1の成川式の土器片，土師器片，2の青磁片等を採集した。古墳時代と中世の遺跡である。

2 赤崎遺跡

里村から上甑村へ向かう県道脇の標高30mから40mの山裾の狭い範囲で成川式の土器片を採集した。古墳時代の遺跡である。

3 下竹崎遺跡

菌上集落を北に臨み、標高10mから50mの傾斜地に立地する。すでに畑地整備が行われており、かなりの切り盛りがあったことも予想できる。成川式の土器片と白磁片を採集した。古墳時代と中世の遺跡である。

4 鶴城跡

周知遺跡で子字は古城である。鶴が羽を広げた形に似ていることから鶴城の名がついたらしい。標高約20mの台地で耕作による削平を受けている畑で成川式の土器片を採集した。古墳時代と中世の遺跡である。

5 中町馬場遺跡（図版1，第1図－3～7）

1984年に鹿児島大学法文学部考古学研究室によって調査が行われた遺跡で、縄文時代から古墳時代の遺物が確認されている。古くは京都大学が調査した里遺跡（周知遺跡）も隣接している。今回の分布調査で里遺跡・中町馬場遺跡を含む広い範囲で遺物の散布が確認された。遺跡分布地図に里遺跡は当初から記載されているので、里遺跡の名称はそのままとし、里遺跡を包括して中町馬場遺跡の範囲を拡大したい。

3は、刷毛による調整痕が明瞭な奈良・平安時代の土器である。4は弥生式土器，5は成川式土器の高杯脚部，6・7は成川式土器の甕底部である。



第1図 甌島の遺物



1. 純浦ヶ迫遺跡 (里村)



2. 赤崎遺跡



3. 下竹崎遺跡



4. 古城遺跡



中町馬場遺跡



1. 新川遺跡 (上甑村)



2. 江石遺跡



1. 小牟田遺跡 (鹿島村)

第2節 上甌村

上甌村は里村と境を接し、上甌島の大半と中甌島からなる。面積は34.96km²である。リアス式海岸で海岸線が長く、上甌島の西部は、海食崖が発達している。北東の海岸には、リアス式海岸を4つの池に変えた長目の浜の3500mに及ぶ砂州があり観光地となっている。市町村別遺跡地名表によると江石遺跡の記載しかないが、文献では桑之浦遺跡の名がある。今夏の分布調査で現地踏査を行ったが、荒地もしくは山林で同遺跡の確認はできなかった。

1 新川遺跡（図版1，第1図－8・9）

海から40mから50m入りこんだ山裾の畑に立地する。成川式の土器片を採集した。古墳時代の遺跡である。8・9いずれも成川式土器の甕胴部である。

2 江石遺跡（図版1，第1図－10～15）

海岸線に広がる砂浜から続く砂丘地に現在の集落が形成され、現在では休耕田となっている後背湿地が続く。江石集落のほぼ中央を流れる川の東側砂丘地の背後に多くの遺物の散布がみられる周知の遺跡であり、今回の分布調査で遺跡の広がりを確認した。古くは甕棺も出土したらしいが詳細は不明である。10・11は甕の口縁部、12は甕の胴部、13は壺の肩部、15は高杯の脚部でいずれも成川式土器である。

第3節 鹿島村

鹿島村は、甌島列島のほぼ中央、下甌島の北端に位置する。北東部は藺牟田瀬戸が上甌村とを隔てている。西北部の海岸線は断崖で、海猫の繁殖地となっている。西南部には甌島最高峰の尾岳があり、分水嶺が村境となっている。役場の所在する藺牟田に人口のほとんどが集中する。面積は9.32km²である。藩政時代は薩摩藩の支配が続き、1869年（明治2）に藺牟田村として独立する。その後、1889年（明治22）に下甌村となり、さらに1949年（明治24）に鹿島村として分村した。

1 小牟田遺跡（図版1，第1図－16・17）

役場から南へ約700m、集落が形成されている砂丘地の南端に立地する。砂丘地及びその後背地で多くの成川式の土器片を採集した。本遺跡は、鹿島村で初めて確認された遺跡でもある。16は口縁部・17は甕の底部である。いずれも古墳時代の土器である。

第4節 下甌村

下甌村は、甌島列島の南端で串木野市の西方約50kmに位置する。北東部は鹿島村と接し、ほかは全て海に面している。下甌島の三分の二を占め、面積は57.56km²である。山は急峻なままで海へと続き、海岸線は海食崖が発達している。

市町村別遺跡地名表によると7ヵ所の遺跡の存在が知られている。役場所在地の手打は村内の最大集落である。手打湾は南に開き、湾奥は約1.5kmの砂丘が続く、この砂丘地上に集落が形成されている。

1 浜遺跡 (図版 2, 第 1 図-18・19)

手打湾奥に広がる砂丘地の東端にあたる。子字石垣及び城間で弥生式・成川式の土器片・土師器片を採集した。遺跡の広がりから分割せずに浜遺跡とした。遺跡時代は、弥生時代から奈良・平安時代にあたる。18は土師器の口縁部、19は土師器の底部である。

3 小泊遺跡 (図版 2)

手打湾の東、湾を一望できる標高約10mの山裾の狭い範囲の畑に立地する。隣接地には近年「竜宮の里」という観光宿泊施設が建設されている。成川式の土器片を採集した。時期は古墳時代である。

4 桑林遺跡 (図版 3)

手打湾の砂丘地の背後に広がる水田を南西に流れる川の右岸、山裾の狭い範囲の畑で成川式の土器片を採集した。標高は、30m位である。時期は、古墳時代である。遺跡の残存状況はあまり良くないことは予想できる。

5 湯ノ尻遺跡 (図版 3)

手打湾の後背湿地に隣接した山裾で狭い段々畑で古墳時代の遺物を採集した。遺跡は小規模で、残存状況は良くないと思われる。

6 長迫遺跡 (図版 3)

湯ノ尻遺跡から西へ約200m、遺跡の立地条件もほぼ同じである。遺跡は古墳時代であるが、残存状況は良くない。

7 城ノ田遺跡 (図版 3, 第 1 図-20)

長浜港を臨む標高60mから70mの台地上に立地する。現況は、荒地と畑である。古墳時代の成川式土器片と20の須恵器片を採集した。

8 中平遺跡 (図版 3)

瀬々野浦の集落内の畑でから古墳時代の土器片を採集した。遺跡地名表では瀬々野浦江川遺跡の記載があり、同遺跡との接点を踏査したが、集落内であることから中平遺跡の広がりを確認するまでにはいたらなかった。

9 浜田遺跡 (図版 3)

片野浦の浜田集落内の畑から土器片を採集した。中平遺跡と同様に民家が密集しているために遺跡の広がりを確認することはできなかった。遺跡の時代は、古墳時代である。

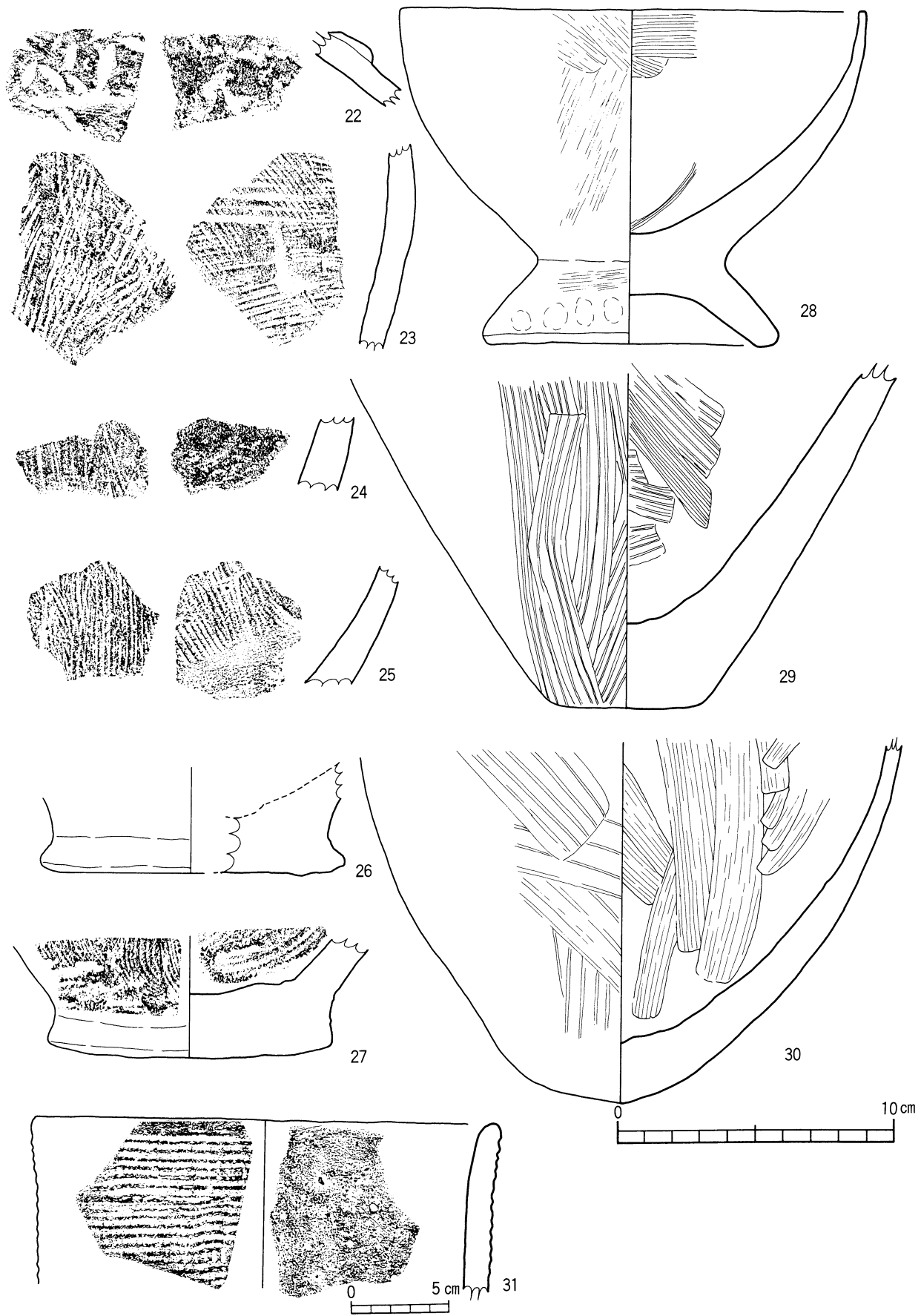
10 宮迫・田之浦遺跡 (図版 3, 第 2 図-31)

浜田遺跡から南西に400m、標高が10~30mの迫田に位置するが、その大半は休耕田である。土師器片を採集した。隣接して中腹に石組を持つ「丸塚」という小高い岡があるが、今回は竹が生い茂り確認はできなかった。31はこの地から以前採集された縄文時代早期の土器片である。

11 大原・宮園遺跡 (図版 2, 第 1 図-21)

本遺跡は、昭和48年に県道工事に伴う発掘調査が行われている。弥生時代から中世にかけての遺跡であるが、遺跡の広がりを確認すると東は今回確認した浜遺跡から西は河口付近まで砂丘全域にわたっているようである。今回の分布調査の採集遺物は、成川式の土器片である。21は、成川式土器の甕底部である。

12 手打貝塚 (図版 2, 第 2 図-22~30)



第2図 甑島の遺物(2)



1. 2. 下飯村手打砂丘全景 (大原宮園遺跡, 手打貝塚 [旧砂丘] その他)



3. 小泊遺跡 (北から)



3. 小泊遺跡 (西から)

昭和30年代に京都大学による発掘調査が行われ、貝塚や人骨等が確認されている。今回の分布調査でも遺物を採集し、遺跡の広がりを確認した。手打貝塚の時期は古墳時代であるが、採集遺物から遺跡の時代は、縄文時代まで遡ることも考えられる。従来の遺跡分布図では遺跡の位置に誤りがあったので、今回の調査で広がりを確認し訂正した。26は、縄文時代後期の鉢の底部と思われる。22～25は、成川式の土器片である。27は成川式土器であるが、底部外面の調整が丁寧で底部としては不安定性があることから蓋の可能性もある。28～30は、手打小学校が所蔵する土器で手打貝塚出土である。28は脚付きの鉢で、29・30は壺の底部である。いずれも外面調整は明瞭な刷毛目である。



4. 桑林遺跡



5. 湯ノ尻遺跡



6. 長迫遺跡



7. 城ノ田遺跡



8. 中平遺跡



9. 浜田遺跡



10. 宮迫・田ノ浦遺跡



第3章 長島町の調査

長島町は、鹿児島県の北西部にあり、長島海峡を挟んで北に牛深市と、黒之瀬戸を挟んで東に阿久根市と対峙する長島の西半分を占める。大部分が安山岩質の丘陵で、安山岩の風化土壌が薄く覆っている。指江古墳群・明神古墳群・小浜崎古墳群など5世紀から7世紀にかけての数多くの古墳があることで知られている。甘薯やみかんなどの耕作が盛んで、丘陵の大部分は耕地化がすすみ、樹園地の造成や畑地の整備によって古墳や多くの遺跡が損壊した可能性が大きい。

1 観音平遺跡（図版4，第3図-32）

茅屋から平尾へ向かう道路沿いの北西向き斜面で、平尾集落の北西にあたる。標高130～140mの西側と北側に谷が落ちる谷頭に位置する。32は土師器の蓋である。ほかに成川式土器片を採集した。古墳時代から中世の遺跡である。

2 仁田元遺跡（図版4，第3図-34）

母良木から犬鹿倉へ向かって左側の、行人岳の北西麓、倉三川の最上流の谷頭にあたり標高210mの東向きの斜面である。現状は重機によって、岩を排除し埋め込んで畑地造成を行った畑で、遺跡は残存している可能性は少ない。周辺は谷頭で、わずかに標高が下がると水田がつくられており、旧石器時代の遺跡の立地として好条件の場所である。34は細石核と思われるが、打面側からの細かい調整が作業面の長辺側にほどこされ、搔器として使用された可能性がある。旧石器時代の遺跡である。

3 古木戸遺跡（図版4）

母良木から犬鹿倉へ向かって左側、小浜川の上流と倉三川に挟まれた標高190mの尾根に位置する。チャートと黒曜石の剥片を表採した。旧石器時代～縄文時代の遺跡であろう。この地域も重機によって畑地造成がすすみ、包含層が削平されている可能性が高い。

4 千代世原遺跡（図版4，第3図-33）

右手に浜瀧浦，左手に温浦を見下ろす標高180m弱の尾根上にある。33は須恵器で、青灰色を呈し、外面を平行タタキで、内面をナデている。他に土師器などの古墳時代の遺物が散布していた。古墳の石室を作る際の板石とも思われる石材が畑地の周辺に並べられており、畑地造成時に破壊されたことも考えられる。

5 立神遺跡（図版5，第3図-35～42）

温浦へそそぐ小河川の上流右岸側で、温浦見下ろす標高182mの台地である。千代世原遺跡と谷を挟んで南側に位置する。縄文時代の土器や磨石や凹石と、古墳時代の土器の破片を採集した。縄文時代と古墳時代の遺跡である。一帯はみかんの果樹園であるが、樹園地造成時に古墳を掘り崩した話を聞き、地主の方に案内してもらったところが図版5の状況である。畑境までは掘り崩さず旧状のままで、高さ1mぐらいの盛り土が残り、板石が何枚かのぞいている。石積みの石室があり、中には入れたといい、現状の石棺の一部とみられるコーナーの遺構とは異なるようである。板石が散乱し、周辺から35～39の遺物が採集された。いずれも土師器で、35・37・38は同一個体である。39は高杯の脚部である。41と42はいずれも縄文時代の敲石と凹石を兼ねたものである。



1. 観音平遺跡



2. 仁田元遺跡



3. 古外戸遺跡



4. 千代世原遺跡



6. 大畑遺跡



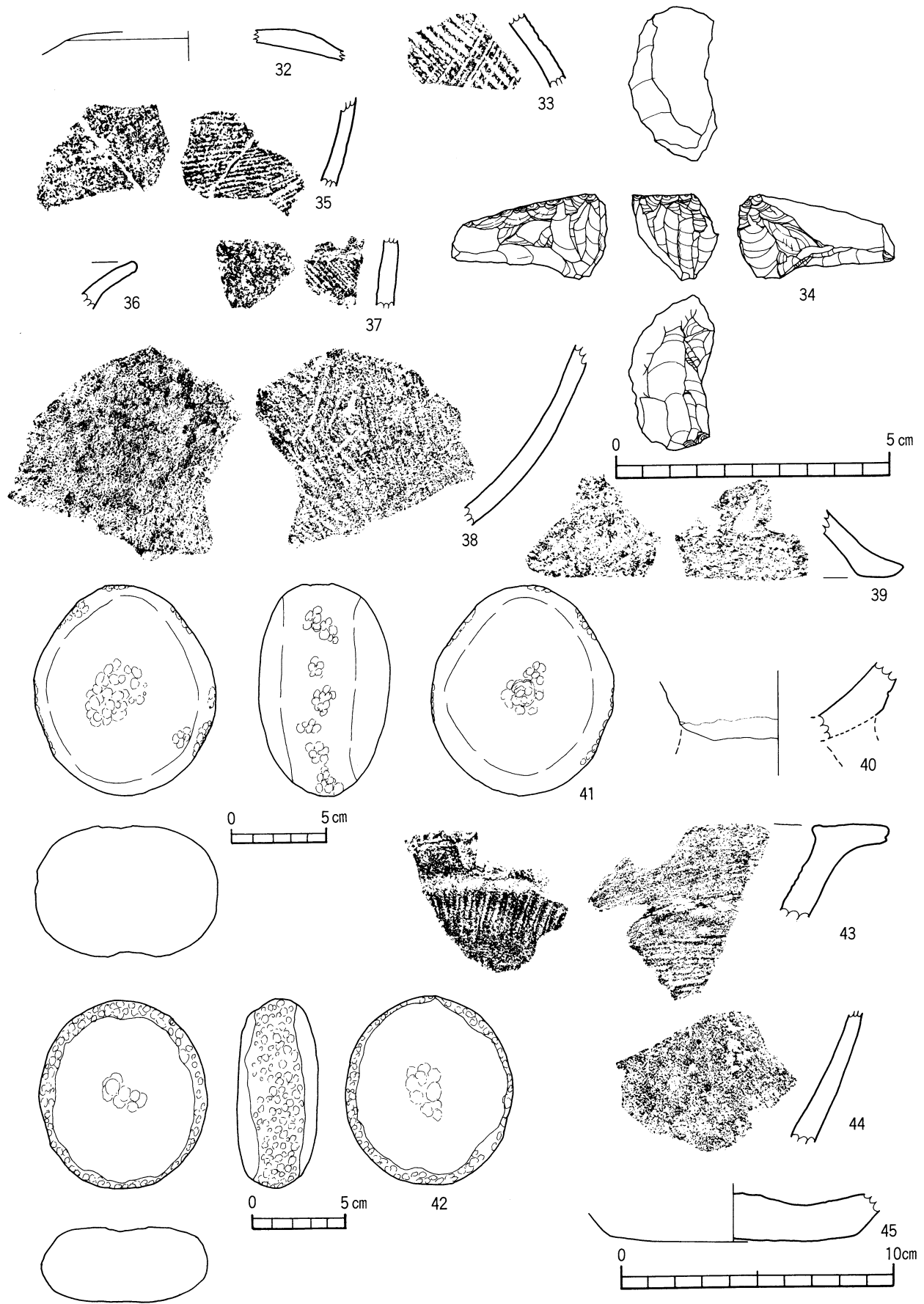
7. 小原ヶ岡遺跡



8. 後畑遺跡



9. 崎野遺跡



第3図 長島町の遺物(1)

6 大畑遺跡 (図版4, 第3図-43~45)

立神遺跡の東側同一台地上の標高180m強の畑で、やや東側へ傾斜する。畑地整理がなされ、畑境の石垣に43~45などの遺物が積まれていた。44は成川式土器の破片である。43は弥生時代中期の高杯の杯部であろう。45は縄文時代の底部とみられる。石垣に板石がみられ、聞き取りでも塚がたくさんあったとの情報もあるが、すでに破壊された可能性が高い。古墳か弥生時代の石棺であったか不明であるが、いずれにしても残念なことである。縄文時代の遺物も採集され縄文時代~古墳時代の遺跡である。

7 小原ヶ原 (図版4, 第4図-46)

菅之原へ伸びる台地の付け根で、菅之原から一段上がり、南東方向に傾斜を変える標高205mの斜面で、南東は急斜面で小浜川が南流する谷へ落ちる。46は須恵器の台付き杯の杯部で、櫛描文がみられる。古墳時代の遺跡である。

8 後畑遺跡 (図版4)

蔵之元港の南東側の標高71mの緩やかな台地である。縄文土器片・黒曜石片・成川式土器片が採集した。また青磁片も採集している。縄文時代・古墳時代・中世の遺跡である。

9 崎野遺跡 (図版4)

指江港の南側の標高15m前後の丘陵で、周縁部に民家が立て込んでいるが、中央部の畑には土器が散布している。指江古墳群の北側にあたり、安山岩質の丘陵と丘陵東側は砂丘となって、土器片はいずれも小破片であるがよく目に付いた。縄文時代から古墳時代の遺物を採集した。

10 木之上遺跡 (図版6)

馬込集落から、汐見川の中流域に川沿いに遺物が散布している。東町との町境から南へ若干下った沖積地で、標高20m前後である。成川式土器片を採集した。古墳時代の遺跡である。

11 湯平遺跡 (図版6, 第4図-47~49)

汐見潟の若宮神社周辺から南東向きの斜面の砂丘にかけて遺物が採集された。標高は5mほどであろう。47・49は須恵器である。47は外面が格子目タタキ、内面が同心円タタキのもので、49は外面が平行タタキ、内面が同心円タタキで一部をナデ消している。いずれも傾きは不明である。48は縄文時代後期の市来式の土器片である。若宮神社と道路を隔てた民家と、民家の庭に石棺墓が発見され、京都大学によって調査された。道路横の畑については、盛り土したとの聞き取りもあったが、過去の調査例と、神社周辺に土師器も散布していることから、一帯が遺跡であると判断した。縄文時代・弥生時代・古墳時代の遺跡である。

12 明神遺跡 (第4図-50~53)

蔵之元小学校から明神古墳群へ至る道路の拡幅工事中に出土・採集された遺物で、後日教育委員会へ持ち込まれたものである。聞き取りでは、河川の右岸、明神遺跡と同一丘陵の南側斜面に当たると考えられる。なだらかな丘陵で、遺跡の立地場所としては好条件を備えている。出土地点は、標高約15m程であろう。50~53の縄文時代後期の土器と古墳時代の土器などが採集されている。50・51は磨消縄文の土器で北久根山式土器、52が市来式土器、53が疑似縄文の土器である。縄文時代から古墳時代の遺跡である。



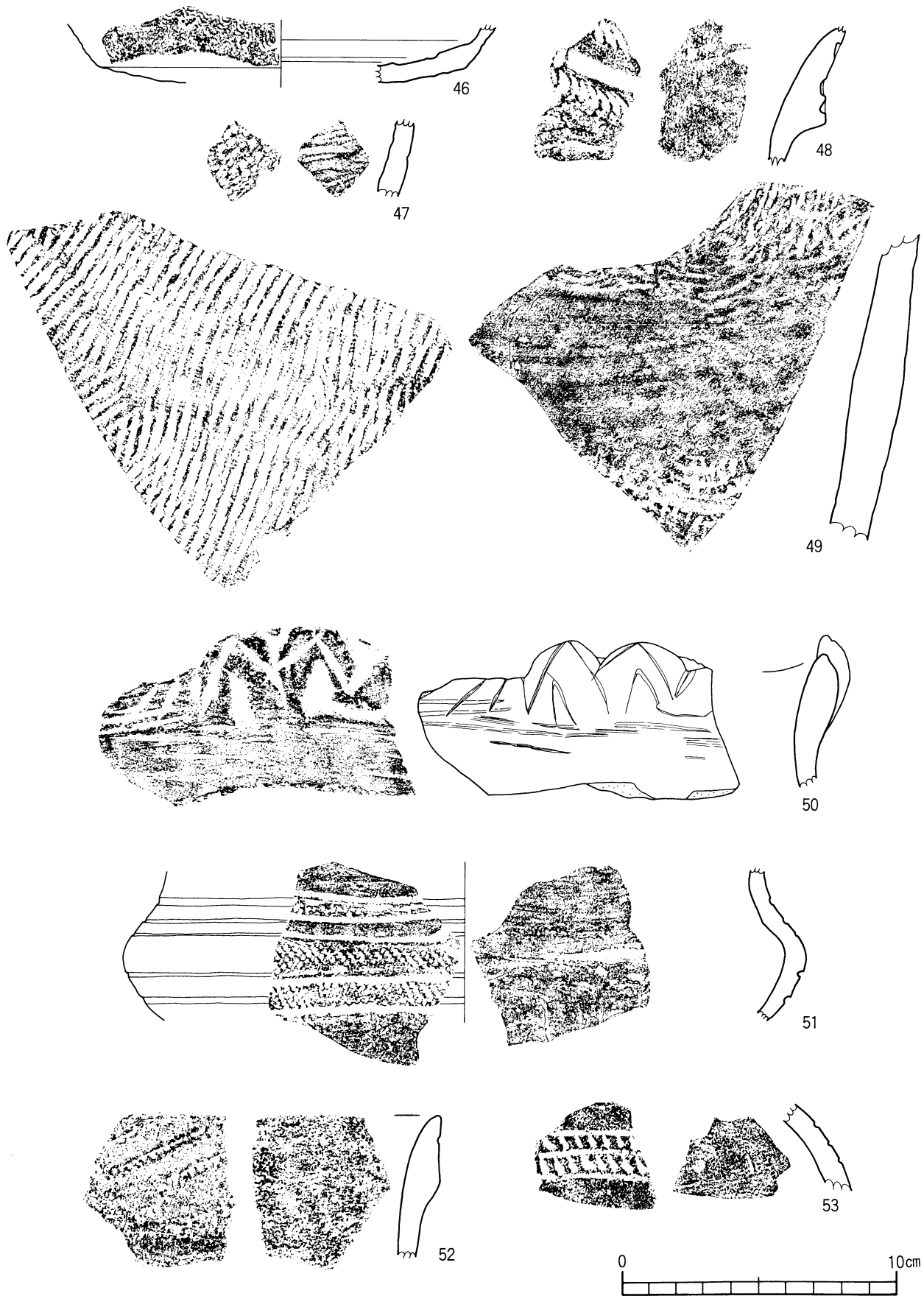
立神遺跡
石棺



立神遺跡
板石散乱狀況



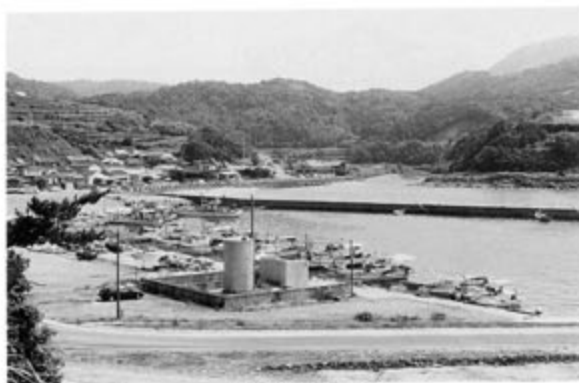
立神遺跡
盛土残存部分



第4図 長島町の遺物(2)



10. 木之上遺跡



11. 湯平遺跡



1. 迫畑A遺跡 (北から)



1. 迫畑A遺跡 (南から)



2. 迫畑B遺跡



3. 中尾遺跡



4. 竹迫遺跡



5. 堂ノ峯遺跡



第5図 祁答院町の遺物

第4章 祁答院町の調査

祁答院町は薩摩郡の南東部、川内川の中流域にあり、北東部および南西部は険しい山岳地帯で、川内川の支流である久富木川・秋上川・後川内川の流域に小シラス台地と沖積低地の小盆地が見られる。薩摩郡で遺跡の多く立地している宮之城町や川内市と違って、「原（はい）」といわれる平坦な比較的大きいシラス台地に恵まれていない。古墳時代以降、「迫」に稲作を伴って開発が進んだものと考えられる。

1 迫畑A遺跡（図版6，第5図-54）

祁答院町の北西端の小牧の標高140mのシラス台地に位置する。南向きに傾斜する畑地で、すでに畑地整備が行われている。畑地から一段下がって、民家の前の畑でも土器片を採集したが、土層の断面観察では、畑地の方の土層はよく残存している。54は成川式土器の甕の口縁部で、突帯がみられる。そのほか、縄文土器の破片も採集した。縄文時代～古墳時代の遺跡である。

2 迫畑B遺跡（図版6）

迫畑A遺跡の東側で、シラス台地の東端部分である。成川式土器の破片を採集した。迫畑A遺跡と同一台地上にあり、遺跡としても同じ可能性がある。他に石鏃の破片も採集した。縄文時代と古墳時代の遺跡である。

3 中尾遺跡（図版6，第5図-55）

下方限の上手小学校の北西のシラス台地で、南向きの標高125mの畑地にある。公民館の東側の畑地で、成川式土器の破片中心に採集した。55は土師器の埴の口縁部で内外面ハケ目調整してある。古墳時代の遺跡である。

4 竹迫遺跡（図版6）

上手の久富木川の左岸の沖積低地を見下ろす標高130mのシラス台地で、東西を小谷で挟まれた北向きの台地である。成川式土器・土師器・須恵器の破片を採集した。古墳時代の遺跡である。

5 堂ノ峯遺跡（図版6，第5図-56）

蘭牟田の中島川の右岸の標高210m前後の小台地である。黒曜石片と成川式土器・土師器の破片を採集した。56は土師器の椀の口縁部である。縄文時代から古墳時代の遺跡である。

6 保機山遺跡（図版7）

蘭牟田原のシラス台地の中央部で、東から小さな谷が深く入り込み、その谷の北側に位置する。標高は210m前後である。古墳時代の遺物を採集した。



6. 保機山遺跡



7. 戸場遺跡 (西から)



7. 戸場遺跡 (南から)



8. 屋所原遺跡



8. 屋所原遺跡



9. 戸高野の古石塔

7 栢場遺跡（図版7）

原のシラス台地の南西部分で、南に中島川を見下ろす。標高200m強で、県道51号線（主要地方道宮之城加治木線）の西側である。現況は樹園地として利用されている。古墳時代の遺物を採集した。

8 屋所原遺跡（図版7，第5図—57・58）

保機山遺跡，栢場遺跡から浅い谷を隔てて東側の220m前後のシラス台地に位置する。千貫岳などの山岳地帯に連なる西麓でもあり，かなりの密度で遺物が散布している。縄文時代の土器と石鏃（図版9），成川式土器の破片を採集した。57は縄文時代晩期の浅鉢形土器の口縁部で，丹塗り土器である。58は成川式土器の小型甕形土器の胴部の破片で，外面がハケ目，内面がナデ調整してある。縄文時代から古墳時代の遺跡である。

また，松尾城跡の西麓，富木川の左岸の戸高野の集落内に古石塔がある。個人によって畑地内で祭られているようである。松尾城跡との関連が最も考えられる。





43



50



46



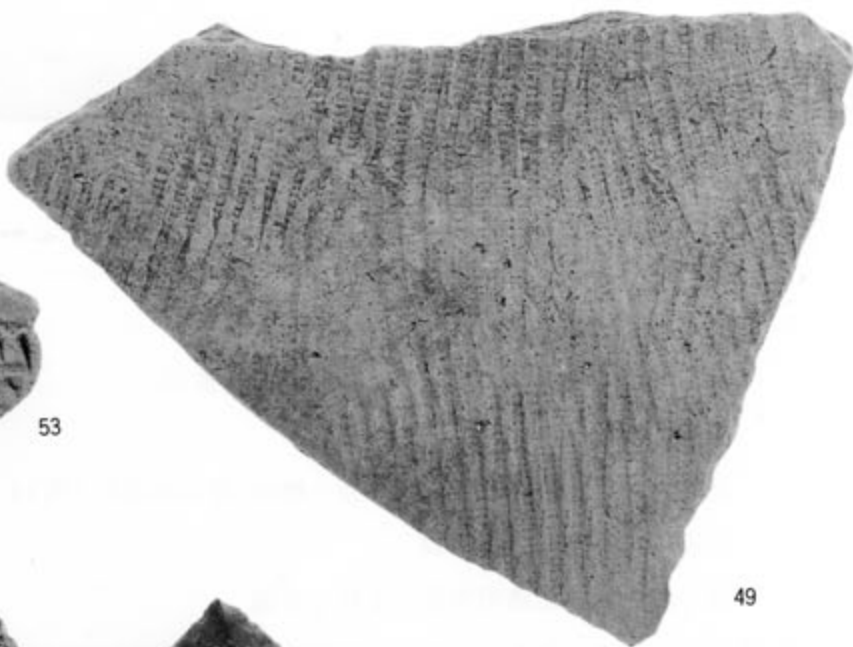
51



52



53



49



鹿児島県埋蔵文化財調査報告書(69)

北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査報告書(Ⅳ)

発行日 平成7年3月

発行者 鹿児島県教育委員会 〒892鹿児島市山下町14-50

印刷所 (資) 協同印刷

住 所 鹿児島市南栄三丁目1番地